



発行所
 十勝毎日新聞社
 ©十勝毎日新聞社 2006
 〒080-8688
 帯広市東1条南8丁目
 TEL(代表)0155-22-2121
 集 局 0155-22-2121
 編 告 局 0155-23-2323
 販 売 局 0155-24-2222
 事 業 局 0155-22-7555
 総 務 局 0155-24-2299

葉もの野菜瞬時に鮮度分析

大樹の「北海道衛星」が開発

【大樹】道産人工衛星の開発に取り組む北海道衛星株式会社(本社大樹市、社長・佐島新道工大助教授)は、葉もの野菜の鮮度を瞬時に分析する小型測定機「鮮度アシスト」を6月下旬ごろに発売する。人工衛星に搭載するハイパースペクトルカメラの技術を応用し、昨年10月に中国・北京市で開かれた農業商談フェアで反響を呼んだ製品。中国では現時点で5万6000台の出荷が見込まれ、佐島社長は「出荷が順調に進めば、今年の秋にも大樹町で発送作業を行う体制を整えたい」と話している。(松村智裕)



葉もの野菜の鮮度を数値で表示する小型測定機「鮮度アシスト」

同測定機は野菜の葉緑素が放つ光の反射を測定し、鮮度を100段階で数値化できる。人工衛星では地表の農作物の生育状況などを測定するために活用する技術。中国では「鮮度を数値化する機能は画期的。購入者の安全・安心に対する信頼度が高まる」と注目を浴びた。日本でもスーパーやコンビニエンスストアなどから問い合わせがあるという。製品は箱詰めや発送の拠点を移す。非常勤職員1人、パート勤務5人ほどの体制にする予定。

鮮度アシストの利益は2007年度にロシアで打ち上げ予定の人工衛星「大樹」の開発予算に充てられる。また、道大は北チンゲンサイを10種類の野菜に対応。他の野菜類に対応する別ソフトの備中、佐島社長は「JAXA販売や肉、魚の鮮度を測る新製品の開発も検討している」。

札幌で3000台ほど出荷した後、常駐職員がおり、本業でも新たな展開が期待できるとした。

小型測定機、中国へ出荷

人工衛星の技術応用